

2014年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極域は正偏差だった。カナダ北東部、ヨーロッパでは正偏差、ヨーロッパの西海上、西シベリアは負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、ユーラシア大陸では平年と比べて弱く、太平洋では平年の位置と比べて南寄りを流れた。帯状平均した気温は、対流圏では全般に正偏差となった。

熱帯の対流活動は、太平洋の熱帯収束帯、中米、アラビア海で活発、南シナ海からインドネシアにかけて不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半は太平洋を、後半は大西洋からインド洋を東進した。太平洋赤道域の対流圏下層では、上旬は中部・東部で東風偏差であったが、下旬は全域で西風偏差になった。対流圏上層では、アラビア半島付近で高気圧性循環偏差、南アジアから中国南部にかけて低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は-0.6だった。

世界の天候

2014年10月の世界の月平均気温偏差は+0.34°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.63°C/100年（速報値）である。

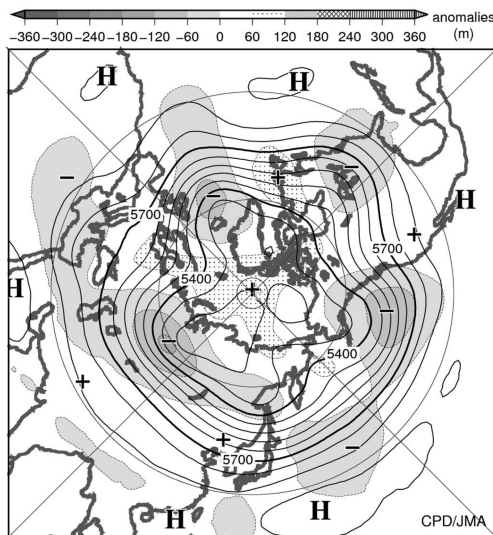
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 米国西部及びその周辺では異常高温となった。
- アルゼンチン北部及びその周辺では異常高温となった。
- オーストラリア南部では異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

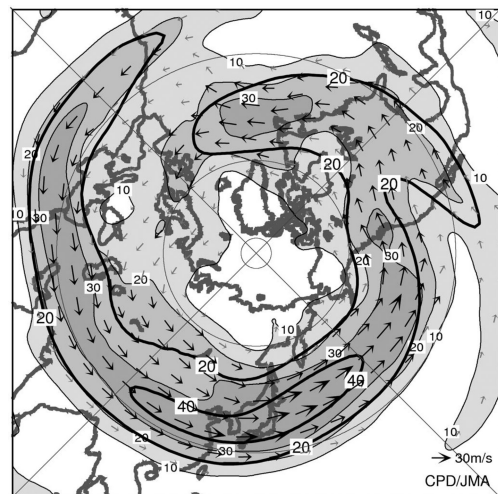
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



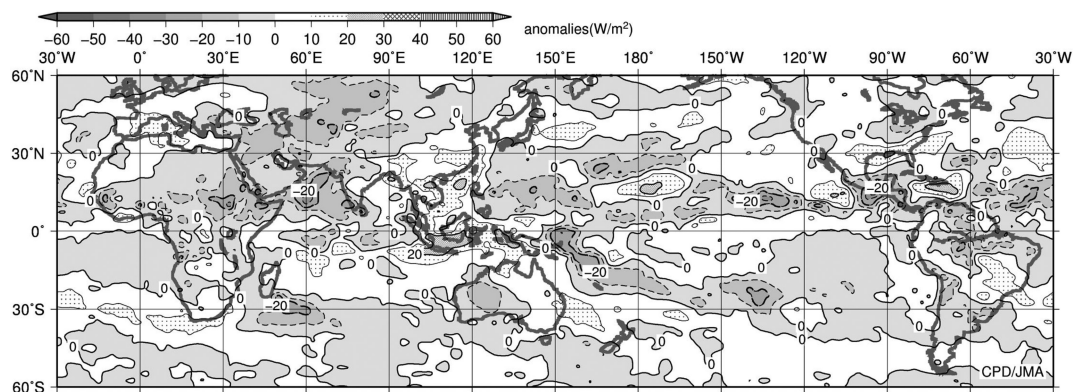
2014年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

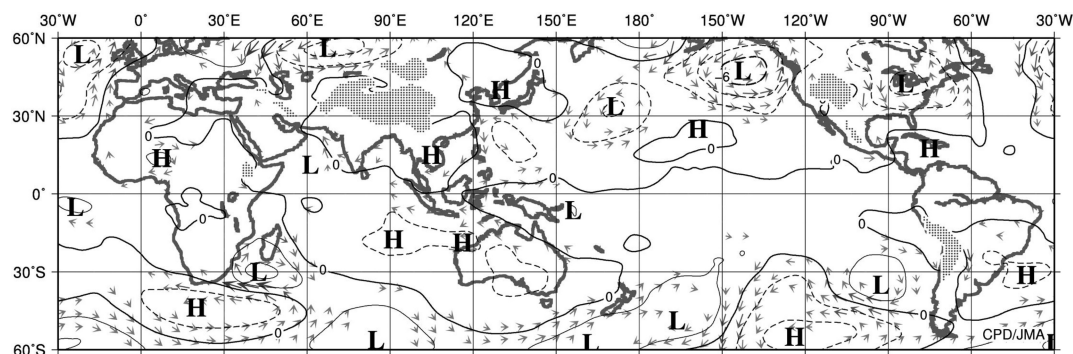


2014年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

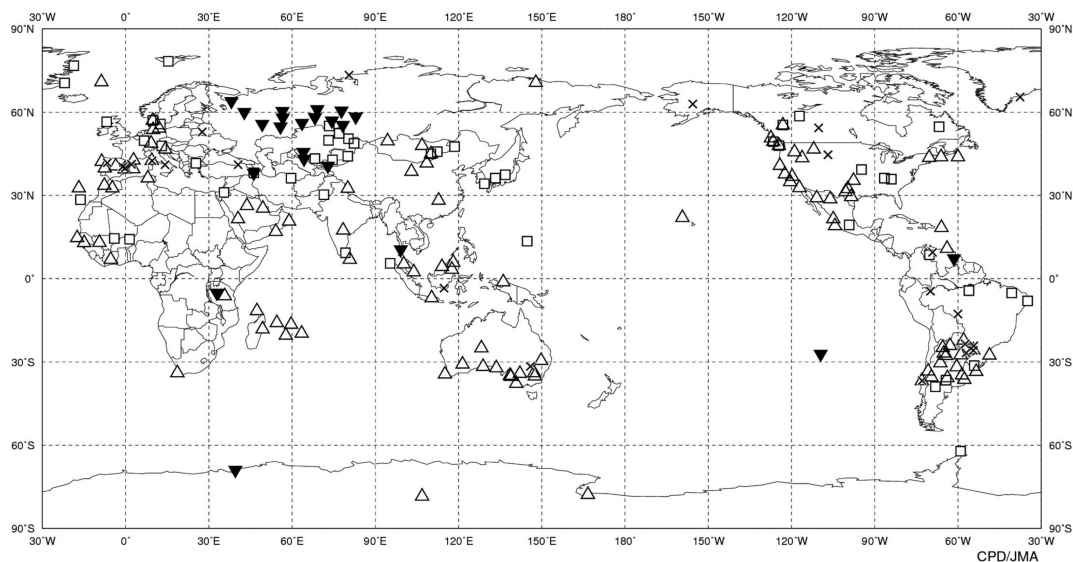
等値線間隔は10 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6 および0。